社会実装に向けた前橋版MaaSの実証

地方都市型

国土交通省 新モビリティサービス推進事業 先行モデル

標準的なバス情報フォーマットGTFSの完備により全路線バスの経路検索が可能となっている前橋市において、自動運転バスを含むさらに多くの交通モード（鉄道、タクシー、デマンドバス、自転車等）を統合したMaaSアプリを開発する。予約が必要となるタクシー、デマンドバスにはAI配車システムを搭載し、一括経路検索・予約・チケッティング・決済を可能とする。

協議会の構成員

前橋市地域公共交通再生協議会の中に前橋版MaaS実証委員会を設置して取り組む（前橋市、群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター、NTTデータ、NTTデータ経営研究所、NTTドコモ、未来シェア、ジョルダン、各交通事業者他）

地域の交通課題

群馬県のパーソントリップ調査によると、前橋市は自家用車分担率が75%と極めて高く、典型的な自動車依存地方都市である。
運転手不足とも相まって路線バスのサービス水準（運行本数等）は幹線等の一部を除き低下傾向にあり、交通ネットワークが有機的に作用していないため、公的補助も増加している。

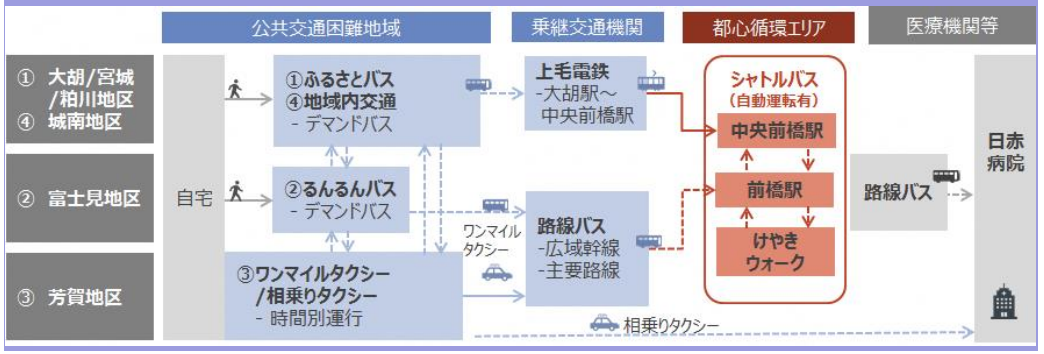
本格的な導入に向けた検証項目、目標値

①アプリのダウンロード数（2,000ダウンロード）②オンデマンド交通と他交通モードとの一括経路検索の予約実績300件③オンデマンド交通（ワンマイル）の利用者数（20人/日）④商業施設等との連携実績100件⑤MaaSアプリ利用者への満足度調査 「便利だと思う」に対する回答55%

【実験内容】

（1）スマートフォン向けMaaSアプリの構築及び実証
・鉄道、バス、オンデマンド交通、タクシー、自転車を一括で検索・予約・決済を行える仕組みの導入。更に市内の集客力のある施設と連携し、公共交通利用ポイント等の付加価値を創出。

（2）オンデマンド交通
・市内郊外部の4地区においてAIを活用したオンデマンド交通を実施。MaaSアプリによる、乗り換えの円滑化策を研究する。

【今回の実証実験における代表的な経路】

・公共交通不便地域（AIオンデマンド交通）から都心部（自動運転車両運行）までの効率的な乗り継ぎの実証を行う。
・医療機関（日赤病院）への相乗りと商業施設（けやきウォーク）でのついで買いで利便性向上と経済活性化を目指す。